新潟教育研究所

平成30年６月１日発行　第 38 号

公益財団法人 新潟教育会
新 潟 教 育 研 究 所

〒951-8104　新潟市中央区西大畑町590-3　新潟教育会館　TEL・FAX 025－222－2971
URL http://kyouikukai.jp　E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

教員の「資質向上に関する指標」と授業研究

福井大学　准教授
風 間 寛 司

同じ方向による大きな教育改革は今年度から移行期間に入った。先日公示された高等学校学習指導要領は，その全部を改正する告示となった。

次期学習指導要領の方向は，既に様々な形で学校現場に生かされており，近未来を見据えて大きな括りで「資質・能力」ベースにした「主体的で対話的な深い学び」の視点からの授業研究が一層求められている。内閣府は2025年の超高齢社会も見据えたSociety 5.0を示し，人工知能（AI）やモノのインターネット（Iot）により，相反する問題を同時に解消していく社会の実現を目指している。

未来を見据えた教育を軸に展開し，厳しい時代をたくましく生き抜く知恵や創造性を教育によって実現していかなくてはならない。

専門職の高度化が求められていながら，熟達した先生方の大量退職により，学校教育は大きな推進力を失いかねない。また，それに伴う大量採用によることから，平成29年４月１日に施行された教育公務員特例法の改正により，教員等の資質向上について新たな枠組みが定められ，教員の「養成・採用・研修」の各段階を通じて，教育委員会と大学等が協働して資質向上を図ることとなった。国の「指針」に基づき，関係大学等と連携した協議を経て，教員の「資質向上に関する指標（以下：育成指標）」を策定し，その「指標」を踏まえ，「教員研修計画」を策定し実行していく。これは学校教育全体のセーフティーネットとも考えられる。

「育成指標」は到達目標である。新潟県と新潟市の育成指標を見ると共通点と独自性もみられる。例えば，県の学習指導は３項目で構成され，市は，授業力を６項目で構成されている。教諭指標と管理職指標を別けて示し，各ステージにおける指標は包括的に身に付けていくと考えられる。

授業研究においては，育成指標を「めじるし」と捉えて，日々の担当授業の中で，授業がよいものになっていくように研究していくとするなら，時間増にはならないだろう。ダメなところだけ改善していく授業研究の先には何がみえるのだろう。自虐的な改善では苦悩は絶えず辛い。一方で毎年同じことの繰り返しでは成長は見込めないのである。留意事項として，「指標は，画一的な教員像を求めるものではなく，全教員に求められる基礎的，基本的な資質能力を確保し，各教員の長所や個性の伸長を図るものとすること。」とある。自分の強みや持ち味を生かした授業研究と自身では気付かないよさについては，研修等の組織と場のデザインとその有効活用に期待したい。D.A.ショーン（1987）は，省察が相互に照らし出され共有された場を「鏡のホール」と呼んでいる。

最後に，学習指導要領の改訂に伴った大学の教員養成カリキュラムの見直しも，教職免許法の改正省令により，平成31年度から実施される。大学組織においても，新たな取組には困難が伴うが，新たなカリキュラムの中で，志と実践力を促進した学生たちが，これからの教育の担い手として好循環の創出に寄与できるように，私自身も組織で協働しながら試行し，授業研究に努めていく。

伝えたい教師の心と技(37)

「地域連携」は学校づくり・地域づくりに欠かせない ただ・・・

新潟教育研究所　教育アドバイザー
荒　木　一　成

1　はじめに

学校と家庭・地域との連携・協働（以下，地域連携）は，もともと社会教育の側からその必要性が言われてきた。しかし，このところの一連の学校教育改革の中で，改革の一つの重要な柱として強調されている。「地域とともにある(歩む)学校」「地域学校協働活動」「社会に開かれた教育課程」などがキーワードとして掲げられ，地域住民等と目標やビジョンを共有し，地域と一体となって子どもを育む学校づくりへの転換が求められている。

2　地域連携の成果

各種調査・実践例が示すとおり，以下のような大きな成果をもたらしている。

○地域連携は学校を変える

「地域住民の参加・参画の増大」「学校教育の充実･多様化」「地域への信頼の深まり」などである。

○地域連携は子どもを豊かにする

「学習や活動の充実」「地域活動への積極的な参加」「郷土愛の育成」などである。

○地域連携は家庭や地域を活性化する

「子ども・教職員への理解の深まり」「子どもとの交流の深まり」「地域活動の活性化」などである。

そして，これらの成果は，学校が抱える課題でもあり，地域連携により課題が成果へと転じていることになる。

3　地域連携の課題

主な課題として，適切な指導者の選択などの「人材確保」や活動の創出・連絡調整などに伴う「多忙化の解消」，地域連携の意義を深める研修の充実・積極的な広報などによる「参加・参画意識の高揚」が挙げられる。

4　提案

○目標の共有と参加・参画意識の高揚

地域連携で一番大切なことは，「双方の主体性」である。特に，家庭や地域側の積極的な参加・参画意識と行動が求められ，「頼まれたから関わる」のでは継続性は期待できない。学校側は，家庭や地域が学校や子どもに関わる必要性を意識する目標を設定し，研修等の機会を積極的に設ける必要がある。このことは，家庭や地域の教育力の向上につながり，「人材確保」という課題解決にも直結する。

実践例を挙げる。Ｆ校では，当時，いじめによる自殺，年少者による殺人，東北での震災被害等が社会問題視される中で，「子どもの命を守る」ことを家庭・地域と共有し，町内会長会（15町内会長の会）・ＰＴＡ・福祉協議会・ＮＰＯなど多様な団体・機関とゆるやかなネットワークを組織して定期的に会合や活動を重ねた。地域の宝である子どものために，自分ごととして「できることをできる範囲内で」取り組むことで活動は次第に定着していった。

○キーパーソンの発掘・養成と活動促進

地域連携で一番大変なことは，連絡調整（コーディネート）である。担任が一人だけで地域と連携した取組を行うには限界がある。また，それが多忙感や負担感につながる。これを解消するためには，連携の窓口としてのキーパーソンを発掘・養成し，活動を促進することが求められる。

キーパーソンとして，学校には地域連携を担当する教職員，地域には自治会・町内会等の役員，保護者代表にはＰＴＡ役員等が位置付けられ，お互いに緊密に関わることで地域連携は加速する。

5　おわりに

「学校，家庭及び地域住民その他の関係者は，教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに，相互の連携及び協力に努めるものとする」（教育基本法第十三条）。

地域連携は重要である。ただ，あくまでも手段（戦術）であることを念頭に，どのような子どもを育てたいのか，地域をつくりたいのか，確固たる目標を持ち，まずは行動を起こすことを期待したい。

教員人生 前期・中期・後期
（前期の巻）

新潟教育研究所 研究員
宮川由美子

はじめに

教員人生，人によって多少の違いはあるが，およそ40年弱。その歳月を，それぞれの年代で，どう充実させていくのか。私自身の反省を含め，これまでを振り返りながら，現役世代にエールをおくりたい。まず，手始めに，若い先生方へ。私には，もはや，遙か昔ではあるが。

1 「知らない」ということは恥ではない

現役最後の勤務校には，毎年新採用教員が配置され，教員としてのスタートをきっていた。

そのため，他の学校よりも若い先生方が多く，眩しいくらいの笑顔，張りのある声，何とも軽いフットワークに見とれる日々であった。

その年の卒業式練習の時のこと。卒業担任全員は，卒業生の世話をしたり歌の歌詞を書いた拡大用紙を全校の子どもたちがよく見えるようにステージ上で示したりと，寒い日なのに額に汗を浮かべていた。一方，フットワークが軽いはずの若い先生方は動く気配がなかった。

その日の放課後，７～８人の若い先生方から校長室に集まってもらい，その状況を考えてもらった。さすがに若い脳細胞は理解が早かった。次の練習時からは，一足早く体育館に来て整列の世話をしたり，椅子並べの先頭に立ったりしていた。もちろん，歌詞の拡大用紙も卒業担任ではない若い先生方が示していた。

「知らない」ということは恥ではない。「知っているのに知らないふりをしている」のが恥ずかしいのである。

2 やってみなければ始まらない

県内市町村では，学力向上に向け，様々な手立てを講じている。

新潟市では，「課題とまとめ」に焦点付けた授業改善を目指していた。何のことはない，既に先生方がやっていることなのだが，単元あるいは題材の見通しをもち，子どもたちにどんな力を付けたいのかを，もっと明確にした授業づくりを行おうということである。

いち早くそれを実践したのが，その年に新採用として配置された若い教員であった。「課題，うーん。まとめ，うーん。」と，手をこまねいていたベテラン組（私を含め）を尻目に，若い先生方が次々に取り組み始めた。

校内の授業研究の協議会で意見を言わないのは，「見ていないのと同じ」と言い続けていた。
その習慣が付いたのか，他校の授業研究会でも臆することがなかったらしい。「○○校の先生方が協議会になると活躍してくれて，協議会を活発にしてくれる。」という声が，次々に耳に入ってきた。

「やってみなければ始まらない」若い世代だからこそのものであろう。

3 心の才能

リオオリンピックで，シンクロのコーチだった井村雅代さんが，こんなことを言っている。
「一流選手だからといって，身体的な才能に恵まれているとは限らない。身体的な才能なんてどうにかなる。たとえ，足や手が外国の選手のように長くなくても，長く見せるようにする方法はいくらでもある。それより大事なのは，何かの壁にぶつかった時に，あきらめずにもっと頑張ろうと素直に思える『心の才能』だ。」

『心の才能』のハードルは決して低くはない。でも，もってほしい！『心の才能』は，教員人生の道のりで力強い伴走者となるだろう。

おわりに

幸いなことに，私は，ガッツのある，子どもたちを一番に思う若い先生方との出会いに恵まれた。彼らには「うるさい存在」だったかもしれない。
「若者よ，悩んでいる暇があったら，汗水たらして働け」と，いつも心の中で檄を飛ばしていた。
見抜かれていたに違いない。

Support, Information & Opinion

S. I. O. の充実をめざします

第10回教師力アップ講座の開催

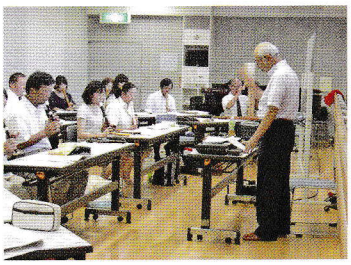
今年は午前の第１講座，午後の第２講座ともに１時間45分（105分）とします。受講は選択制，研修は参加型，参加費無料，どなたでも参加できます。別紙「教師力アップ講座」の案内状をご覧になってお申し込みください。ＨＰからでも申込できます。

- **日時**　平成30年７月29日（日）午前９時45分～
- **会場**　新潟教育会館（新潟市西大畑町590-３）
- **内容**　第１講座「小学校のプログラミング教育導入に向けて～背景と考え方についての講義とプログラミング体験～」

講師　片山　敏郎　様
日本デジタル教科書研究会 副会長
新潟県・新潟市小学校教育研究会 事務局長
新潟市立新潟小学校 教諭

第２講座「温かい学級と強い学級～秋から学級をバージョンアップする実践方法～」
講師　橋本　定男　様
新潟薬科大学 非常勤講師

教育アドバイザー派遣事業の推進



教育アドバイザー派遣事業は，要請に応じて登録いただいている教育アドバイザーを派遣し，学校及び先生方を支援する制度です。校内研修はもちろんですが，授業研究会，ＰＴＡ講演会，研究サークルへの派遣申請が多く見られます。個人研修の要請にも応じますので，ご利用ください。教育アドバイザーの選定は，「教育アドバイザーリスト」ご覧ください。12月には，平成30年度登録者を加えた「平成30年度版教育アドバーザーリスト」を作成します。

所報「新潟教育研究所」の発行

６月・12月・３月の年３回発行します。

教員意識調査の実施

第８回教育調査は，その内容と対象について検討中です。皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

教育アドバイザーの派遣について

要請の仕方

校内研修で，研究会で，ＰＴＡの講演会，研究サークル等で，「あの先生にアドバイスを受けたい，話をしてもらいたい」と思ったら……

1　まず事務局にお電話をください。
新潟教育会事務局 **025-222-2971** へ
招請したい教育アドバイザー，期日，内容，会場，参加人数等をお話ください。

2　事務局が教育アドバイザーに連絡をとります。

3　依頼者に諾否の結果をお知らせします。

4　応諾であれば，依頼者が教育アドバイザーに詳細を連絡してください。

> ※　事前に教育アドバイザーと連絡を取り，結果を事務局にお知らせいただく形でも結構です。

派遣経費についての注意

謝金・交通費等は，年度内で連続して同一の教育アドバイザー派遣を要請する場合，初めの１回分だけを当方が負担します。２回目以降は利用者が負担してください。教育委員会からの要請はご相談ください。